

特集 令和5年行方市二十歳のつどい



▲市長から記念品贈呈 代表 小貫里紗さん



▲代表謝辞 実行委員長 箕輪永美さん



1 月8日（日）、行方市文化会館で、令和5年行方市二十歳のつどいが開催されました。

今年二十歳を迎える人は、平成14年4月2日から平成15年4月1日までに生まれた市内在住者および市立中学校卒業生339人です。

会場は、晴れ着に身を包んだ若者たちが、久しぶりに会う友人と写真を撮ったり、近況を語り合ったりと、マスク越しにたくさんの笑顔であふれました。

二十歳のつどいの企画・進行は、二十歳を迎える人たちが構成する実行委員が中心となって行いました。受付時には、健康チェックシートの提出と保健師による検温・問診を行いました。会場内でも、ソーシャルディスタンス確保の呼びかけ、式典後の行動自粛の注意喚起などの感染症対策を行いました。さらに、社会貢献活動の募金の呼びかけなどしながら、それに応じた一人一人の協力により、二十歳の門出にふさわしいつどいになりました。



◀ 検温と健康チェックシートの持参・記入を実施。検温済みの方には、リストバンドを着用。



◀ 市職員から二十歳の皆さんへメッセージを伝えました。

二十歳のつどい 実行委員紹介

箕輪 永美	掛田 山人
川島 凜	高柳 愛梨
大野 健輔	額賀 怜大
中村 真愛	上原 寛太
永作 麻佳里	小貫 紗華
長峰 海成	熊谷 凜
森山 大輝	茂木 翼
大和田 美帆	

新たな未来に向けて羽ばたく二十歳の皆さんの、今後のご活躍を期待しています。

式典の中で、市長からは「これから、自立した一社会人として、これまで以上に責任ある生き方、言動が求められます。どうか、その自覚をしっかりと持ち、これらの人生を大切に、丁寧に歩んでいっていただきたい」と励ましの言葉がありました。

式典後のアトラクションでは、中学校時代の学年主任の先生方、担任の先生方からお祝いの言葉をいただきました。また、行方市出身シンガーソングライターAIR Iさんによるステージが実施されました。

祝！二十歳



社会貢献活動「ユニセフ募金」

二十歳のつどい当日、会場にて実行委員会が中心となって募金活動を行い「8598円」の募金が集まりました。皆さんからいただいた募金は、公益財団法人日本ユニセフ協会を通じて、貧困・教育・保健・衛生など各分野において、世界の子どもたちの幸せのために活用されます。

実行委員、行方市高校生会も募金の呼びかけに協力しました。

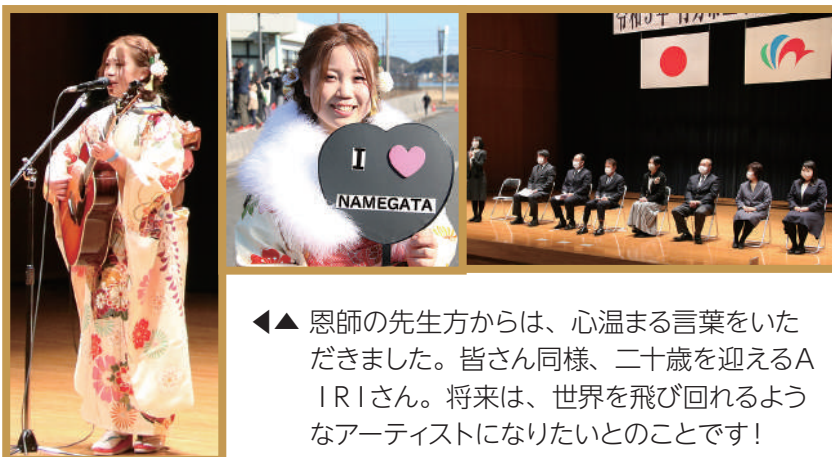


アトラクション

【中学時代の先生からお祝い】
【シンガーソングライター・AIRさんのステージ】

中学時代の先生からお祝いの言葉をいただきました。二十歳の皆さんに向けてAIRさんから、オリジナル曲2曲を含む計3曲が披露されました。

◀▲ 恩師の先生方からは、心温まる言葉をいただきました。皆さん同様、二十歳を迎えるAIRさん。将来は、世界を飛び回れるようなアーティストになりたいとのことでした！





上原 寛太さん

本日は、私たちのために、このような盛大な式典を開催していただき、誠にありがとうございます。また、鈴木周也市長をはじめ、ご臨席の皆さまにお祝いと激励の言葉をいただき、喜びを感じるとともに、大人としての責任の大きさに身が引き締まる思いです。これまでの人生を振り返り、私を感じることは、今まで出会った多くの方への感謝の気持ちです。特に両親には、これまでたくさんの苦労をかけてきました。今、この場に立てているのも、いつもそばでサポートしてくれた両親の存在があったからだと思います。私には、これまでの二十年間で学んだこと、そして、これからも大切にしていきたいと思うことが三つあります。一つ目は、感謝の気持ちです。感謝の気持ちで伝えると、マイナスな感情になる人はいないと思います。どんなささいなことでも「ありがとう」という気持ちを忘れずにいたいです。そして「ありがとう」と言葉にして伝えていきたいと思

います。二つ目は、人との縁やつながりです。今まで、私に関わってくれた方々のご縁やつながり、そして、これからの新しい出会いは私にとって一生の宝物になります。現在、私は大学で、地域連携に関わる授業を履修しています。大学の授業では、主に、茨城県という広い範囲でそこに住む人々とのつながりを学びました。私は、大学で得た学びを、自分との関わりが深い行方市でも生かしていきたいと考えています。地元の方との縁やつながりを大切にしていきたいとともに、これから築いていく人とのつながりを通じて、地元である行方に住む人々の温かさや魅力をもっと多くの人に伝えていきたいと思

います。三つ目は、失敗を恐れず挑戦することです。私は、これまでの人生の中で失敗するリスクが一番低い選択肢を選ぶことが多くありました。これから、社会で生きていく中では、さまざまな選択を迫られる場面が増えてくると思います。その時、自分の直感を信じて、失敗を恐れずに地域や社会に貢献できるように、多くのことに挑戦していきたいと思

います。以上の三つのことを大切にして、新しい出会いから可能性を広げ、打たれ強く芯のある大人になりたいと思います。最後になりますが、今日まで、一緒に活動してきた二十歳のつどい実行委員会のメンバーや、二十歳のつどい開催に向けて支えてくださった方々に感謝を申し上げます。代表発表とさせていただきます。本日は、誠にありがとうございました。



大和田 美帆さん

本日は、このような素晴らしい式典を開催してくださり、誠にありがとうございます。この日を無事に迎えることができたのは、家族や友人、今までお世話になった恩師の方々や地域の皆さまのおかげです。この場所に立って皆さまにご挨拶できることに感謝し、参加者を代表いたします。心よりお礼申し上げます。私は現在、県内の大学に通っており、特別支援教育に携わる職に就くため、日々勉強に励んでいます。特別支援教育に興味を持ったのは、高校時代に知り組んだ行方市高校生会でのボランティア活動がきっかけでした。高校在学中の三年間、さまざまなボランティア活動に参加させていただき、高校二年生の夏休みに参加した「いきいきキャンピング白浜」という小学生対象のキャンプで、とある女の子と出会いました。そして、この出会いが、私が現在の道を志すきっかけとなりました。その女の子は自分の気持ちを言語化することが苦手で、キャン

プ中は何度も他の友達に言いにくいことを伝えられなくて、かんしゃくを起してしまっていました。当時は、私自身どのように寄り添うべきか、どういった配慮が必要なのかすごく悩み、少しでも発言しやすいようにと試行錯誤しました。結局キャンプ中は他の友達とうまくコミュニケーションを取れたことはほとんどなかったため、成長させてあげられなかったことに私は悔やみました。しかし、キャンプが終わった際、ほんの一瞬でしたが、他の友達に自分から「キャンプ楽しかったね。」と言っている彼女の姿がありました。キャンプを通して少しでも、いえ、大きく成長できた瞬間に携われたことがうれしかったのを今でも鮮明に覚えています。このキャンプでの三日間は、私にとって非常にかげがえのない経験となりました。そして、その経験は大学での勉強やサークル活動はもちろん、現在も継続しているボランティア活動を行う原動力となっています。このよう

な道を選んだからには、将来、特別支援教育を通じて、地域社会や行方市のために恩返しができるよう精進して参りたいと思います。

結びに、これまでお世話になりました多くの方々に改めて感謝申し上げますとともに、これからも、まだまだ未熟な私たちにご指導ご鞭撻の程よろしく願います。長くなりましたが、これにて代表発表を終わりにいたします。